

2013年度第1回VLBI懇談会役員会 議事録(案)

- 日時 : 2013年6月10日(月) 13:30-15:30
- 場所 : 国立天文台三鷹 輪講室
- 出席者 : 関戸、面高、永井、藤沢、名越、黒田、三好、米倉、萩原、青山、村田
(TV会議) 高羽、中川、半田、川口
- 欠席者 : 松本、徂徠
- 資料 : 議事次第、事務局報告、議題リスト、会員名簿・会費納入状況、学生セッション(名越)、機関報告・北大(徂徠)、機関報告・茨城大(米倉)、機関報告・筑波大(永井)、機関報告・岐阜大(高羽)、機関報告・山口大(藤沢)、機関報告・鹿児島大(中川)、機関報告・国立天文台水沢(川口)、機関報告・国土地理院(宇宙測地課)、機関報告・NICT、機関報告・極地研、機関報告・JAXA/宇宙研(村田)、VLBI運営小委員会報告(藤沢)
- 議長 : 関戸(事務局長)

報告

1. 各機関活動報告

- ・ 岐阜大(高羽)
 - メンバー
 - 研究内容: 銀河中心のVLBIモニター、測地VLBI等
 - 水素メーザが不調。4月に野辺山でテスト、ロシアに修理依頼、6月下旬に完了予定。

- ・ NICT(関戸)
 - メンバー
 - プロジェクト
 - ◇ 時刻比較
 - ◇ 34m: 震災復旧。新受信機、10月に実験予定。Lバンド、RFI対策。K、Qバンド。
 - ◇ 11m: ステレオ衛星のダウンリンク受信、SgrA*のVLBI観測。
 - その他: TDCシンポジウムを開催。広帯域受信システム、K6の名称の統一の提案。
質疑: 新VLBIターミナルの国内名称統一に基本的に賛成するという意見があった。また、新システムのフィールドシステムについて質問があった。
これに対し天文観測で用いられるVEX系のスケジュールにも対応すること、

コマンドの共通化も考えた方がよい事などの説明があった。追加の意見として、観測だけでなく、相関処理のことも考えてプロトコルを決めるのが望ましいとの発言があった。

- 茨城大学（米倉）
 - 人員
 - 2012年の実績報告
 - 2013年の予定
 - 観測=VLBI、メタノールの単一鏡モニタ、SgrA*など。
 - 開発関連=2素子干渉計、22GHz冷却両偏波受信機の2台目、光結合は不透明な状況。

- ISAS/JAXA（村田）
 - 人員
 - プロジェクト（宇宙研自体の研究、中国、ロシアの計画など）
 - VLBI関連アクティビティ
 - JAXAのVLBI局：臼田64m、臼田10m、内之浦34m（初論文）
 - 宇宙研のVLBIグループの状況
 - 共同利用機関としての宇宙研

- 極地研（青山）
 - 体制
 - 観測実施状況：水素メーザの不調、しらせが接岸できないことによる問題
 - 観測設備の状況
 - データ処理、解析
 - その他：11mアンテナは2015年末頃に解体の予定。後継機を検討・提案中。

- 国土地理院（黒田）
 - メンバー 若杉さんが加入
 - 32m：5月2日に運用停止。グラウトの摩耗によるレールの沈下、最大4mm。修復対策中。
 - その他：職場見学など。
質疑：UT1観測など、VERA局で支援できる部分があれば連絡して欲しい。

- 山口大学（藤沢）
 - メンバー
 - 山口大学のプロジェクト研究
 - 天文学研究の内容
 - 開発・装置関連
 - 課題等

- 大学連携（藤沢）
 - 最近の状況
 - 大規模観測の状況
 - 最近の論文
 - 組織改革・研究計画
 - 質疑：JIVEのオペレータトレーニングによるデータ品質の一様化など、取り入れてみてはどうかとの提案があった。

- 鹿児島大学（中川）
 - 人員：准教授公募中、海外から学生が定常的に来る。
 - 装置、プロジェクト関連
 - 開発
 - 成果：学生の論文も多い。

- 国立天文台水沢（萩原）
 - 人事
 - 目標
 - 運用実績、成果
 - 10周年記念事業
 - 広帯域システム
 - 東アジアVLBIセンター
 - ソフトウェア相関処理：国内観測（VERAの観測）はソフトウェアで水沢で処理する方針。光結合された局はネットワークを通じて三鷹で記録、それ以外の局はdisk記録することが想定されている。
 - 国土地理院との共同観測体制、国内網、32m、光結合など
 - 質疑：今年のメンテナンスの予定に関する質問があった。これは例年通り夏に実施する。今後、大学連携の相関処理はどこで行う予定であるか質問があった。これはVERAに準じて水沢でソフト相関処理する予定。

- ・ 筑波大学（永井）
 - メンバー
 - プロジェクト：K帯測地観測、SgrA*のモニター
 - 現在の状況：ポインティングの飛び、アンテナの停止
 - 今後：32mの復旧を待つ

- ・ 北大の報告について、議長から簡単に説明があった。

2. その他の報告

- ・ 国立天文台 VLBI 運営小委員会報告（藤沢）
 - 国立天文台の VLBI 運営小委員会の紹介と、委員会で行われている議論について紹介があった。
- ・ 学術会議公開シンポジウム「天文学・宇宙物理学中規模計画の展望」（面高）
 - 学術会議が中心になって推進している中規模・大規模計画に関するシンポジウム（5月28日、29日）について報告があった。学術会議が主導して、今後の国家計画としての研究を議論する場を設けた。文系理系の様々な研究分野から提案があり、天文関係では25個の計画が出されている。電波天文関連では5件+SKA。今後、このシンポジウムの報告書が出版される予定。質疑：報告書に載るメリットは何かという質問に対し、直接にはメリットはないが、文科省が予算措置をする際の参考になっていると考えられると回答された。

3. 事務局報告

- ・ 入会・退会者
- ・ 会費納入状況
- ・ シンポジウムの集録
- ・ 将来計画に関連する活動など

議 題

1. 2013年度VLBI懇談会シンポジウムについて

開催地について議論を行った。候補地として国土地理院が推挙されたが、今年度はアンテナ建設で多忙な事等により、来年度を希望するとの発言があった。同様に極地研究所は担当の青山氏が長期出張等で対応が難しいとの発言があった。筑波大学は特に大きな問題はないため、受諾の方向で大学に持ち帰って検討する。受諾の場合、SOC、LOCを組織して準備を始める。

学生セッションについて、昨年同様、今年度も実施したいとの提案が名越氏からあり、

了承された。

2. 役員交代・選挙について

- ・ 国立天文台の機関代表幹事の梅本氏が野辺山に異動したことにより、幹事を萩原氏に交代することが提案され、承認された。
- ・ 次期事務局として茨城大学が推薦され、承認された。任期は2年。
- ・ 次期役員選挙について議論が行われ、以下の事が了承された。
 - 投票は郵送による。選挙管理は事務局で行う。
 - 会長、機関代表幹事は信任投票とする。投票用紙には機関名および幹事候補者名を記載する。
 - 会長候補者は現状のまま面高氏とする。
 - 機関代表幹事は、各機関が8月末までに事務局に推薦する。
 - 大阪府立大学は機関代表幹事を出す意向があるか確かめる。もし意向がある場合は推薦してもらい、次期の機関代表幹事に含める。
 - 投票用紙に全国区幹事の記名枠を4個用意し、4名まで記入できることとする。
 - 学生代表幹事を設置することは、学生としては現時点では考えていない。

3. その他

特になし。

(議事録作成：藤沢)